

### 3. 施政方針の概要

#### 市政運営の基本姿勢と重点施策

##### 安心・支え合い最優先

市民の安全・安心の確保と、地域での支え合いを醸成していく取り組みを進める。

1. 市立病院における医療の充実と赤字の圧縮 【予算額 391,908 千円】  
患者の痛みや負担の少ない治療を推進するための内視鏡検査装置等、医療機器の整備充実を図る。  
昨年6月から地方公営企業法を完全に適用し、自らの権限と弾力的な運営により効率的に経営が行える組織体制へ移行したことにより、新年度予算では前年度比約1億2千万円の赤字を削減する。
2. (仮称)箕面シニア大学の創設と(仮称)シニア・ナビの開設 【予算額 2,389 千円】  
自主的活動の中核と成り得るパワーや知識を持つ高齢者の、仲間づくりや地域活動へのデビューを支援するため、シニア・高齢者に特化した「(仮称)箕面シニア大学」を創設する。  
団塊世代が地域に戻られることを念頭に、これまでの経験を活かした多様なボランティア活動への紹介や、仲間作りを支援する窓口「(仮称)シニア・ナビ」を新たに開設する。
3. 元自衛官の採用による危機管理体制の強化  
災害に対する自治体の危機管理能力が強く求められている時勢に対応するため、豊富な経験を持つ元自衛官を採用し、危機管理監に充て、緊急時の対応力を再構築する。
4. 昨年度に続く消防車両の大幅な更新 【予算額 106,782 千円】  
昨年度の5台に引き続き、消防車両5台(常備消防車両1台、非常備消防車両4台)を更新し消防力の強化を図る。

##### 子育てしやすさ日本一

子育てがしやすく、子どもたちが健やかにのびのびと育つ環境を整える。

1. 急増する保育所待機児童への積極的対応  
・ 2011年4月、保育所と認定こども園を新たにオープン(保育所定員150人増) 【予算額 346,425 千円】  
第二総合運動場の50メートルプール用地を転用し、認可保育所を新設する。(定員120人)  
小中一貫校とどろみの森学園敷地内に、保育所・幼稚園の一体型施設「認定こども園」を新設し、0歳から15歳までの一体的な保育・教育体制を整える。(保育所定員30人、幼稚園定員95人)  
「箕面市待機児童ゼロプラン」の目標「2014年度までに保育所定員を300人拡大」の一環  
・ 公立幼稚園で簡易保育を実施 【予算額 103,120 千円】  
市立とよかわみなみ幼稚園において、3歳児を対象とした簡易保育を委託する。(定員25人)
2. 大阪府内全33市で初めて、幼・小・中の耐震化率100%を達成  
【前年度からの繰越額 5,219,226 千円】、【予算額 8,425 千円】  
昨年の秋に着手した幼稚園3園、小・中学校9校の耐震化工事等を新年度の末に完成し、大阪府内全33市で初めてとなる幼稚園及び小・中学校の耐震化率100%を達成する。  
新年度はさらに、保育所1所の耐震化工事及び保育所1所の耐震診断調査を実施する。
3. 2011年4月、彩都に小中一貫校を開校 【予算額 2,097,504 千円】  
とどろみの森学園に続き本市で2校目、大阪府内の公立学校でも2校目となる施設一体型の「小中一貫校」を、2011年4月に彩都で開校する。これにより、9年間の子どもの一貫した学びと育ちを支える特色ある教育活動を展開する。
4. 校庭・園庭等の芝生化のさらなる推進 【予算額 6,806 千円】  
子どもたちが青空のもとで元気に駆け回り、体力向上にもつながるグラウンドの芝生化を、経費を大きく抑えた独自のポット苗方式により、保育所1所・幼稚園1園・小学校3校で実施する。
5. 「(仮称)箕面・世界子どもの本アカデミー賞」を創設 【予算額 64 千円】  
子どもの活字離れを防ぎ、読書意欲を高めるため、子どもたち自身が選んだ本や主人公を表彰する「(仮称)箕面・世界子どもの本アカデミー賞」を創設し、箕面から全国に発信する催しへと展開する。

##### 緑・住みやすさ最先端

豊かな緑を守り、便利で住みやすく、元気で活力ある箕面をめざして、まちづくりを進める。

1. 山なみ景観保全策の強化 【予算額 1,985 千円】  
箕面のシンボルである山なみ景観を守るため、東西7キロメートルにわたる山すそ部を新たに「山すそ景観保全地区」に指定し、更なる山なみ景観の保全策を進める。
2. 「まちなかのみどり」を支援する制度と、その財源となる基金を創設【予算額 797,957 千円】  
住宅地のシンボルツリーや生け垣緑化など、市民が身近な緑を守り、育て、活かすための「まちなかのみどり支援制度」を創設する。  
「まちなかのみどり支援制度」の財源とするため、昨年度の施政方針で示した「(仮称)みどりファンド」を具現化する「みどり支援基金」(約7.9億円)を創設する。
3. 遊休農地の解消を図る「農空間保全事業」の創設 【予算額 1,500 千円】  
遊休農地解消に実績をあげている「営農指導チーム(農業委員会)」、就農意欲のある市民と農業者をつなぐ「農業サポーター制度」に加え、農業基盤(農道等)の整備に補助する「農空間保全事業」を創設し、遊休農地の解消を促進する。
4. 全市域を対象とした「まちの美化」の推進 【予算額 616 千円】  
箕面のまちを美しく維持するため、罰則規定も含んだ「箕面市まちの美化を推進する条例」を制定し、全市域において空き缶のポイ捨て、犬のふんの放置等を禁止する。
5. 箕面駅前、桜井駅前、北部地域の活性化促進 【予算額 301,260 千円】  
多くの観光客が訪れる玄関口「箕面駅前～箕面大瀧へ続く滝道」の再整備に着手する。また、滝道における川床(かわゆか)の社会実験を行う。  
桜井スーパーマーケット旧館部分を用地買収し、駅前広場的な送迎や駐車スペースとして整備する。また、次のステップとなる桜井駅周辺の本格的な再生に向けた検討に着手する。  
旧止々呂美小中学校跡地に「(仮称)止々呂美ふるさと自然館」を新設し、朝市など地元農業者の活発な動きと連動して、豊かな自然を活かすアウトドア・レジャーなど集客力のある地域振興策を展開する。
6. 北大阪急行線延伸構想の推進 【予算額 106,117 千円】  
大阪府や鉄道事業者とのトップクラスによる会議を設置し、事業実現に向けた合意形成を加速させる。また、国土交通省鉄道局へ職員を派遣する。  
早期着工に向けた準備として、昨年度の当初予算で14年ぶりに基金積立を再開した「交通施設整備基金」に、新年度は倍額の1億円を積み立てる。
7. 秋に市内バス路線網を再編 【予算額 54,890 千円】  
秋から市内バス路線網を再編し、3カ年の実証運行を経て、便利で持続可能なバス路線網を再構築する。
8. 箕面の「魅力」の営業活動を加速 【予算額 3,010 千円】  
箕面の特長でもある「観光の魅力」と「住宅都市としての魅力」を民間企業とのタイアップにより市内外に広くPRし、箕面のブランド力をさらにアップさせる。

#### 市政運営を着実に実行するために

##### 市役所改革・行政改革の断行

民間企業との人事交流、国や大阪府への派遣により、職員のスキルを高めるとともに、人的ネットワークを広げる。  
業務の内容やプロセスを洗い直し、「標準化」や「外部化」などを行う「業務の再構築」を進め、経費の圧縮と市民サービスの向上を図る。  
池田市、豊能町、能勢町との2市2町間で合意した行政事務の広域連携について、2011年度中の本格実施に向けて、来年1月から一部試行を開始する。